

## パース沖縄県人会発足式での挨拶(10月20日)

西豪州日本クラブの皆様、在パース日本国総領事の内藤です。

本日はパース沖縄県人会の発足式にご招待を頂きましてありがとうございます。ひとことご挨拶を申し上げます。

2017年に発足したパース沖縄県人会が、今般、西豪州日本クラブの傘下で法的な登録を終え、ホーキンス明子様が会長をつとめられる部会として正式に発足されたとのこと、誠にめでたうございます。

パースには、TIDA、Kijimuna、三線の会など沖縄文化の発展に寄与される活動的な文化交流団体がいくつもおられますので、パース沖縄県人会の発足は誠に時宜を得たものです。

沖縄には、その強靱な逞しさ、若者も憧れをもつ民謡やエイサーのカッコよさ、そして多文化との共存という、西豪州のサブカルチャーにも通じる魅力があります。

昨年、フリーマントルで開催された素晴らしい沖縄チムドンドン祭りでも述べましたが、意外に知られていないのは、19世紀末に渡来した日本人の草分けと言えるブルームの真珠潜水士の中には、和歌山県とならび、沖縄県から来られた方々もおられたということです。

このためブルームには、沖縄出身の21才の若いパールダイバーが潜水病で亡くなったのを悼む「サヨナラ・ナカムラ」という歌があり、今も歌い伝えられています。

ブルームの日本人社会は、大変な苦勞をしながらも土地と人に強い愛着をもち、2つの祖国の架け橋となりながら、西豪州の発展の一部となっておられた方々です。その生き方に対する示唆と尊敬は、西豪州の日本人社会に受け継がれております。

パース沖縄日本人会の皆様には、こうした西豪州ならではの文化や想いの継承につきましても貢献され、一層の発展をされんことを願っております。

ありがとうございました。

以上